

平成 16 年度「特色ある大学教育支援プログラム」

採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	宮崎県立看護大学	整理番号	1-1-053
応募テーマ	主として総合的取組に関するテーマ		
取組名称	到達目標を共有する教育プログラムの取組		
申請単位	大学全体		
申請担当者	薄井 坦子		
<p>(取組の概要)</p> <p>取組の到達目標は「看護専門職者の育成」である。専門職に求められる理論的基盤、現象への視点と判断過程、表現技術、専門的責任の4項目の修得を目指した教育課程のモデルと評価規準を教員・学生間で共有し、教授—学習過程では、目標・目標の展開・授業評価を求めるとして授業案を教員・学生が共有し、到達レベルを明示した自己学習—グループ学習—個別指導—自己評価システムを活用。修得状況は週1回の合議で確認している。実践力の育成には、全学年の共通モデルとして創出した看護の本質と現象をつなぐ科学的なく看護実践方法論を自己や事例で学習した後に、臨地実習で患者に適用。モデルの創出とその共有は、学年間・卒業生間の交流や他大学との遠隔双方向授業を可能にした。システムへの学生の評価は高く、事実をもとに看護現象を語れること、患者の持てる力を引き出せること、小さな変化がよい変化として見えるなどから、看護職者としての自覚と誇りおよび基本的実践力の修得を認めている。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>この取組は、宮崎県立看護大学の教育理念である「ナイチンゲールの看護観・看護教育観」をもとに「生命の尊厳を知り、人々の生命力を高め、心に働きかけ、人々のセルフケア・セルフコントロールを手助けできる看護専門職の育成」を達成するために、地域に開かれた大学として、既に7年以上にわたって組織的に実施されています。その有効性は、最終段階の4年次生の実習報告書及び卒業研究の質的分析の結果や地域に根ざした看護実践の成果等から、実証され大きな成果を上げています。</p> <p>現在、看護系大学には、社会・経済構造・産業構造の急激な変化や価値の多様な時代にあって、あらゆる人々の幸福や健康に関わる真の専門職教育が求められています。この取組は、一貫した教育理念を明確な方法論をもって、学生—教員の双方向による「到達目標の共有」を基盤にカリキュラムモデル、看護過程モデル、授業—学習モデルを実践的な取組として展開をしている点は、他の大学、短期大学の参考になり得る優れた事例であると言えます。</p> <p>今後、この取組の中核となっている、「看護専門職者としての認識の形成」や「看護観の表現技術の体系化をめざした教育実践」という課題が、さらに充実・発展することを期待しています。</p>			